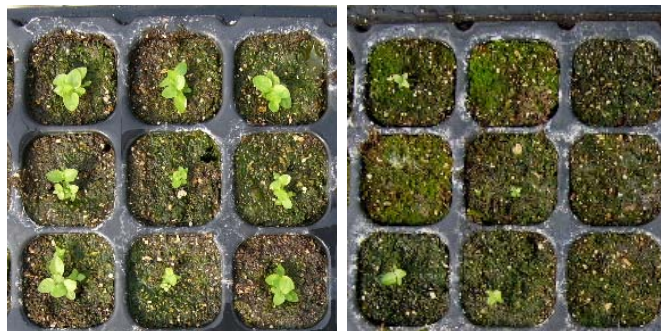


## リンドウの育苗中に発生する苗腐敗症の発生生態と薬剤防除対策

### 【1 成果概要】

リンドウの育苗中に発生する苗腐敗症（アルタナリア菌による苗斑点症状）は、ロプラール水和剤を種子浸漬処理した種子を播種するとともに本葉 2 対目展開時に散布することで防除することができます。

苗斑点症状を引き起こす病原菌は、出芽不良や苗立枯れも引き起こし、苗立割合を下げる主要な原因となっていることが明らかになりました。そこで、リンドウ種子をロプラール水和剤の500倍液に48時間浸漬することで、苗立割合が向上することを明らかにしました。



ロプラール処理区

無処理区

写真1 ロプラール水和剤の種子浸漬による欠株の発生防止効果（本葉1対目展開時）

種皮に付着した病原菌が伝染源となり、子葉で発病した後、本葉に伝染します。そこで、本葉2対目が出始める時期にロプラール水和剤1,000倍を散布することで、以降の病勢進展を抑制することができます。



写真2 子葉に付着した種皮（右）と子葉に発生する葉枯れ（右）。子葉に発病した後、本葉に伝染する。

表1 ロプラール水和剤の散布時期と苗斑点症状の防除効果

生育ステージ <sup>1)</sup>	散布日	調査苗数 <sup>2)</sup>	発病苗率 <sup>3)</sup> (%)
1 対葉	3月26日	118	35.6
2 対葉	4月27日	98	8.2
3 対葉	5月7日	77	20.8
無処理	-	66	53.0

試験地：八幡平市農家圃場

供試品種：マジェル（H19産、種子消毒なし） 播種日：3/12

各時期にロプラール水和剤1,000倍を散布した

調査日：5月26日（3対葉揃い）

1) 各対葉が見え始める時期、2) 調査時にセルトレイ内に残存していた苗数、3) 2,3対葉を対象に調査した

### 【2 留意事項】

- 1 種子浸漬処理は、発芽促進を目的としたジベレリンによる種子浸漬と併用することができます。
- 2 子葉の褐変は、種子殻の付着した葉で多く認められます。そこで、発芽の遅れにより子葉に種皮が付着しないよう、育苗前半の温度管理を徹底してください。また、病原菌は高温・多湿を好むため、多湿にならないよう灌水管理を徹底してください。
- 3 ロプラール水和剤は耐性菌が発生しやすい薬剤であるので、農薬使用基準に基づき育苗期のみ使用してください。

### 【3 効果】

苗の安定生産供給につながります。

### 【4 適応対象】

種苗生産者、農作物改良種苗センター